

## ラテラルシンキング

2025.4.2

「13個のオレンジを3等分するにはどうすればよいか」この問題に対して、「まず12個を等分し、残り1個を3分割」「重さを量って3等分」これらは垂直思考である。一方、「ジュースに絞る」「残り1個の種を植え果実を等分」これが水平思考である。発想次第でももの見方は大きく変わる。

物事を論理的に考える論理的思考（ロジカルシンキング）＝垂直思考（バーティカルシンキング）に対し、自由な発想で考えるのが水平思考（ラテラルシンキング）である。与えられた枠組みの中で問題解決を探る前者に対し、後者は多様な視点による問題解決への自由な思考法である。

ラテラルシンキングなどというと、親近感を感じない。運動で考えてみる。子どもの遊びの場面が理解しやすい。園児や児童にボールを渡すと、自由に遊びを始め、やがて自分たちでルールや落としどころまで決めたりする。誰に言われるでもなく、自然発生的な光景で、これこそラテラルシンキングにほかならない。スポーツには、競技特有のルールがある。だが、規則のない自由な側面もあり、ここに着目すると可能性が広がる。

一方のロジカルシンキングは、論理的思考ともいわれ難関な印象もあるが、日々使っているものであり、逆算して使われる場面が少なくない。9時に学校集合だから8時に出て、それには10分前に準備を終えてという具合である。目的に対してこうしようという考え方である。それに対して、ラテラルシンキングは、例えば移動手段そのものを考える。いつもは電車だがタクシーではどうか。渋滞するか。だったら自転車にするか。

出勤初日からしばらくは後者のようなことを考えても、じきに最も楽で早く着ける方法を選ぶようになる。思考は、次第にロジカルへと傾いていくのが常である。その要因として、論理的な学習環境で育ってきたことが挙げられる。ロジカルシンキングは、集団生活においては便利な側面があり、みんながラテラルに考え始めると収拾がつかなくなる。そのためロジカルとなるのだが、いつしか行き詰まるときがやってくる。このときこそ、ラテラルシンキングの出番である。

園児の遊びでは、すぐにルールが変わる。影踏み鬼をやっていたけれども、年少さんが入ったら鬼に追いつけず、つまらない。その結果、誰にでも楽しめるようにルールが変わる。何のために運動やゲームをするのか。楽しく、そして健康になるためである。だからラテラルなのである。しかし、通常、スポーツでは、競技に集中してしまい、ロジカルになる。その瞬間、人によっては途端につまらなくなる。

誰もラテラルシンキングの経験はもっている。効率、合理性、タイパなどばかり重視していると、次第にラテラルシンキングはどこかにいってしまう。ルールがないところ、むだなところ、不得意なもの、非効率的なものなど、あらゆる要素を加味してみる。すると、新たな世界が見えてくる。今年度も、幼稚園はラテラルシンキングを育む場でありたい。